

新幹線「東京―仙台」再開も…停電でストップ



仙台―福島の間を再開した東北新幹線。奥は建設が進む仮設住宅

Photo By 共同

- 東日本大震災の被害で運休していた東北新幹線のうち福島―仙台の運転が25日、再開し、45日ぶりに仙台―東京の直通列車が走った。午後には停電のため、上下線で一時運転を見合わせたが、被災地では、今後、首都圏とのアクセスが向上することで復興に向けた動きが早まるとの期待が高まっている。

午前6時前、快晴の中、東京行きのやまびこが仙台駅の東北新幹線ホームに入ると、スーツ姿のビジネスマンらが乗り込んだ。早朝ということもあり空席が目立ったが、一番列車は定刻の午前6時2分に出発した。

震災後、首都圏への出張で在来線と新幹線を使い続けていた仙台市太白区の会社員阿部修さん（48）は「1本で行けるのはありがたい」。単身赴任先の栃木県小山市に戻る男性会社員（50）は「やっと元に戻りつつある」とほっとした表情を見せた。

午前8時半には東京発のやまびこが仙台駅に到着。大きな荷物やスーツケースを持った乗客が次々とホームに降り立った。東北新幹線は大震災で全線が運休。仙台駅の新幹線ホームは天井や電光掲示板が落ちたほか、ペットボトルなど物が散乱するなど被害を受けた。

仙台―東京間は上下計88本を運行し、最速で2時間7分。宮城県の担当者は「新幹線再開は県全体が前向きに頑張っていくエネルギーになる」と期待する。29日には一ノ関―仙台間が復旧予定で、これにより新青森―東京間の全線で運行。震災前の3月5日に導入された新型車両「はやぶさ」も29日に再開する予定。

満晴君が誕生して間もない頃の出来事です

ただ、再開ムードも午後には一転。新白河～白石蔵王間で3回にわたり停電が発生し、東京～仙台の上下線で長時間にわたり運転がストップ。再開を待ち被災地に入る予定だったボランティアや、支援者らも足止めをくった。JRによると、福島駅付近で架線の一種の「保護線」が垂れ下がっているのが見つかった。通常の架線と接触しショートしたとみられる。大震災で切れた箇所、補修済みだったという。

新白河～白石蔵王間に一時、列車8本が立ち往生。仙台に向かっていたやまびこ261号は郡山～福島間のトンネル内で2時間以上停車した。「運転再開までしばらく時間がかかります」との案内が繰り返されると、乗客からため息が漏れた。結局、福島駅まで進めず郡山駅へバック。ケガ人はいなかった。午後6時10分ごろ運転を再開したが、上下21本が運休、22本が最大約3時間半遅れ、約1万3000人に影響が出た。



○ 011.06.10_蔵王のお釜を背景に

○ 2011.06.10_バアが写した力作です



○ 2011.06.10_蔵王頂上ですが、03.11 の地震により伊達家の記念碑が危険に